



豊橋・学校いのちの日集会

6月18日の「豊橋・学校いのちの日」に先立ち、本校では6月16日（金）に「豊橋・学校いのちの日集会」が行われました。

テレビ集会で行いました。子どもたちは画面越しに校長先生を真剣に見つめ、校長先生が体験した「いのちの大切さ」に関わる話に聞き入っていました。それぞれの子どもが「いのち」について考える機会となりました。以下に子どもたちの感想の一部を載せます。ご家庭でもたった一つしかない大切な「いのち」について話題にしていただけたらと思います。

- ・笑顔で元気な子が15歳で死んでしまったのは、かわいそう。「死ね」とかは絶対に言ってはダメ。
- ・余命のことを知らずに学校に行って、普通の生活を3か月していたなんて。旅行に行った後に「大人になったらまた行きたい」って言ったのがぐっときました。
- ・亡くなったその子は、とても生きていたいという気持ちが強かったんだなと思った。ここにいられるというのは、とてもありがたいとさらに思った。
- ・「死ぬ」ってことはこんなにも近くて、つらくて、せつないものなんだと改めて思いました。女の子の「生きたい」という最後の言葉も、そのあとの友達も、校長先生の気持ちも考えると泣きたくになります。
- ・命の時間は誰でも限られているということを知ることによって命というものがどれだけ大切なもので、どれだけすごいものかを知ることができました。
- ・命は一つしかないものだから今生きているだけですごいと思いました。生きて好きなことを好きなようにできる「今」を大切にしたいです。
- ・生きているからできることがたくさんあるし、自分は人と比べてだめだなんて思うことがたくさんあるけど、生きていることこそがすごいことだと実感した。

図書ボラの皆さんによる読み聞かせ

6月14日（水）に図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせが体育館で行われました。「しりとりのだいすきな おうさま」と「竹とぼくとおじいちゃん」という絵本を読んでもらいました。読み聞かせの後には、120年に一度しか咲かないとても珍しい竹の花を見せていただいたり、竹で作ったおもちゃなどを触らせてもらったりしました。

図書ボランティアの皆さんありがとうございました。そして、吉田方の図書ボランティアの活動をもっと多くの方に知っていただき、ご参加いただきたいと思えます。ぜひ、一度見学に来てください。

【問い合わせ先】 教頭 伊丹美樹 31-2055



